

さくらやま便り

No.334号 2022年（令和4年）7月15日



「きょう、山で天使に出会いました」

エッセイ（1）

板東 洋三郎

日本の山には、地図には名があっても、実際には存在しない山がある。伊豆半島の天城山もその一つである。それは、「伊豆の山々」の総称であり主峰は、私が登った伊東方面からは手前にある万二郎岳と、標高が高くその奥にある万三郎岳である。実は「ばんざぶろう」岳に、幼稚な関心があつて以前からチャンスを狙っていた。私の名の最初の1文字と、後の2文字をつないで読むと、その山の名になるからである。

伊東駅で降り、バスで登山口に着いたのは11時を過ぎていた。それでも、足の遅い私でも2時ころまでに登頂できれば、5時40分の最終バスには十分間に合うだろうと思い登り始めた。

登山道は、前日の雨で泥道だった。新しい足跡を見つけて私は、足元に集中しながら歩き続けた。しかし、登坂が急になり水が引き鮮明になった足跡を見て愕然とした。それは登山者のもものではなかった。私はけもの道を歩いていたのだ。その時、登山で初めて道に迷ったことに気づいたのだ。

手持ちの地図を見ると、登山口に入って20分ほどで通過するはずの「四辻」の標識を見ていないことに気づいた。スマホのGPSを見ると、現在地は確かに四辻と万二郎岳を結ぶ登山道からかなり外れている。登山道に合流するのは難しくはなかったが小一時間は費やした。

そのため、目標の万三郎岳の頂上に着いたのは、3時少し前だった。軽食を済ませて、来た道を下りようとしたとき、突然大柄の男性が目の前に現れた。タオルをかぶり、地下足袋をはき、手には枯れ木の枝。登山道ではあまり見かけないでたちである。挨拶をすると「どちらの道を下りますか」と聞いてきた。彼は涸沢分岐ルートを下ると言う。私は最終バスに間に合いたいので、来た道を下りると言って別れた。

万三郎岳は難なく下りた。しかし、万二郎岳を登り始めて間もなく、左足を40センチほどの岩に置いて登ろう

とした時、考えられないことが起こった。脚に全く力が入らないのだ。自分の脚がただの砂袋でもあるかのようなのだ。後で分かったのだがこれは「登り返し」と言い、登山者にはよくある症状の一つだそう。

山に登るときに使う筋肉と、下るときに使う筋肉は違う。登るときに使う筋肉は、上体を持ち上げる。下るときには、上体を支える別の筋肉が働くので、その筋肉は休んでいる。ところが、しばらく休んでいた筋肉が、次の登りに対応できないことがあるのだという。ただ、その時は、低カロリーが原因かと思ひ、いつも携行するチョコレートを食べた。そのせいかどうか分からないが、体力が戻りかろうじて万二郎岳を越えることができた。

山を下り切った地点で、登りに見落としていた「四辻」の標識があった。ところが、少しおかし。踏み跡さえない方向を指して「登山口」とある。地図を手にして困惑していると、背後に何ものかの気配を感じた。振り返ると、なんと頂上で出会った男性である。私の戸惑いに気づいたのだろう。「行きましょう」とだけ言っただけで彼は歩き始めた。私はひたすら彼の後に続いた。

それにしても不思議なこともあるものだ。懸命に男性の後を追いつながら私は考えた。彼が下ったルートも、私が下ってきたルートも、時間的にはほとんど違いはないのだが、私は登り返しのため、40分ほど遅れていた。私が助けが必要な時、彼は現れた。説明は見つからなかった。だがその時は、それで十分だった。

登山口に着いた時は6時半を過ぎていた。最終バスはとうに出ている。男性は、「何かあったら声をかけてください」と言うので駐車場の方に行った。私は、地図にあるタクシー会社に電話したがつながらなかった。やむを得ず駐車場に行くと男性は、自分の軽トラックに乗るよりに促した。

勾配のきつい急カーブが少なくなったころ、天城山にはよく登るのかと男性に尋ねると「よく登ったよ。でも、今日は10年ぶりだよ」と答えると話し始めた。

男性の妻は10年前に脳梗塞で倒れ、それ以来彼が介護をしてきた。しかし、その妻は半年前に亡くなった。彼女が元気なころ二人でこの山によく登っていた。彼女が亡くなってからはどうしても登る気にならなかった。しかし、今日はなんとなく登りたくなって来たと言う。息子が一人いるけれども遠くに住んでいること、仕事を探しているが過疎地なので難しいこと等を話してくれた。伊東駅までの道のりは1時間ほどであった。「道案内をしてもらい、こんなに遠い駅まで送っていただいて、本当にありがとうございます」と私が言うと「こちらこそ、愚痴を聞いてもらって、気持ちが軽くなりましたよ」と返した。

すでに暗くなっていた道路に消えて行く男性の白い軽トラックを見送りながら「きょうは、山で天使に出会った」と私はひとり呟いた。

※(今月号から3回、巻頭のエッセイをお届けします)

生活相談員から

主任 遠藤裕之

1. 避難訓練と懇談会が終わりました

ご出席いただき、ありがとうございました。みなさまと直接お話をさせていただき、とても貴重な機会となりました。詳細は職員間でも共有させていただきます。

2. 浴室窓の工事案内

予定 8月1日(月) 15時〜 4日(木) 13時
浴室内外を乾燥させて工事をいたします。万一雨天の場合は翌週に、翌週が雨天の場合は翌々週に順延となります。ご不便をおかけいたしますがよろしく願います。

3. 結核の健診について

現在、確認の方法などを調整中です。詳細が確認でき次第、改めてご案内いたします。

4. 熱中症と新型コロナウイルスにご注意

エアコン・扇風機・換気を上手に利用し、水分をしっかり摂りましょう。なお緊急連絡先が変更になった場合は、事務所に必ずお知らせください。

5. 行事予定

① ピアノ・リコーダーコンサート

日時 24日(日) 午後2時〜2時30分

場所 2階レストラン

※ 今回は、コロナ禍以降、久しぶりの音楽会です。

短時間ですが、素晴らしいゲストをお招きしましたので是非ご参加下さい。(詳細は掲示します)

② あんみつ

日時 8月7日(日) 午後

場所 2階レストラン

6. 偲ぶ碑をご紹介します

風雨で荒れていた「偲ぶ碑」を、わがケアハウスの中村卓雄さんとボランティアの前川紀彦さんが改修して下さいましたので一部をご紹介します。とてもきれいになりましたので、足を運んでください。

シャローム

偲ぶ碑・プレート設置台改修作業

(2021/9/10~11/22)

①<改修前>



故人の名前が書かれたプレートの支えとなる「仕切板」がバタバタ倒れてプレートが立たない悲惨な状態だった。

②<改修作業開始> 仕切板の間にセメントを流し込んで固定する。昔の職人技を駆使して計画通りに作業中の前川さん。 まだ残暑の日差しが強い。



④<改修完了>

暑い夏の終わりから落ち葉の散る晩秋にかけての通算10回のボランティア作業だった。仕切板はしっかり固定された。もう倒れない。ついでに墓標の汚れも洗い落としスッキリした。(参考)セメント使用量約300Kg(予定230Kg)。



③<改修作業中> 孤軍奮闘中の前川さん。80%出来た。間もなく完成だ。



7月の誕生者

1日 山上 時夫 様
5日 中嶋 聖子 様
15日 中村 卓雄 様
16日 牧田 芳男 様
22日 西方 和子 様

お誕生日、おめでとうございます。お健やかな毎日をお祈り致します。